

受託業者を特定するための評価基準

別紙 1

業務名：平城宮跡歴史公園における利用者周遊性向上に向けた移動支援検討業務（平城宮跡の利活用推進事業（西側地区・単独公共））

●配置予定技術者（企業）の経験及び能力等

評価項目				判断基準	技術点				
					管理技術者	担当技術者(※6)	照査技術者	小計	合計
配置予定技術者（企業）の経験及び能力（※7）	資格・実績等	資格要件	技術者資格	技術者資格を次のとおり評価する。  ①技術士（総合技術監理部門（建設）「都市及び地方計画」） ①技術士（建設部門「都市及び地方計画」）  ②RCCM「都市計画及び地方計画」  ③上記①②以外	①2  ②1 ③0	①2  ②1 ③0	①1  ②0.5 ③0	5	23
		専門技術力	業務執行技術力①	平成24年4月1日以降、本業務における公告日までに完了した同種業務又は類似業務の実績を次のとおり評価する。（※3） （照査技術者としての実績は評価しない。）  同種業務：「モビリティ」または「移動支援」にかかる実証実験の実施を伴う検討業務（※1）（※2） 類似業務：「モビリティ」または「移動支援」にかかる検討業務（※1）（※2）  ①同種業務の実績がある ②類似業務の実績がある ③上記①②以外	①3 ②1.5 ③0	①2 ②1 ③0		5	
		情報収集力	地域精通度	平成24年4月1日以降、本業務における公告日までに完了した近畿地方整備局又は奈良県県土マネジメント部発注の下記業務実績の有無について、次のとおり評価する。（照査技術者としての実績は評価しない。）  ①平城宮跡歴史公園内における業務実績あり ②上記①以外の奈良県内における業務実績あり ③上記①②以外	①2 ②1 ③0	①2 ②1 ③0		4	
	成績・表彰	専門技術力	企業の業務執行技術力	平成30年4月1日以降、令和4年3月31日までに完了した奈良県県土マネジメント部発注の建設コンサルタント業務の委託業務等成績評定点を、次のとおり評価する。（※4）（※5）  ①6.5点以上（業務成績評定点の平均値－6.5）×0.2 ②6.0点以上6.5点未満（業務成績評定点の平均値－6.5）×0.4 ③6.0点未満－3	Max7			7	
		専門技術力	業務執行技術力②	近畿地方整備局発注の平成30年4月1日以降、令和4年3月31日までに完了した業務のうち、本業務の公告日までに表彰された優秀建設技術者表彰又は優良工事等施工者表彰（建設コンサルタント等）の経験について、次のとおり評価する。（照査技術者としての実績は評価しない。）  ①局長表彰の実績あり ②部長表彰の実績あり ②事務所長表彰の実績あり ③上記①②以外	①1  ②0.5 ③0	①1  ②0.5 ③0		2	
手持ち業務量（※7）		専任制		公告日時点における契約額500万円以上の手持ち業務量について、次のとおり評価する。（照査技術者として従事するものは含めない。）  ①手持ち業務の契約総額1億円未満、かつ手持ち業務の件数が5件未満 ②手持ち業務の契約総額1億円以上2億円未満、かつ手持ち業務の件数が5件未満 ③上記①②以外	①3 ②1.5 ③0	①2 ②1 ③0		5	5

- ※1 「モビリティ」とは、車両等によって人の移動性を向上させるものを指す。
- ※2 「移動支援」とは、福祉・介護分野における移動の支援ではなく、公園内や公道上において車両等を用いて人の移動性を向上させるものを指す。
- ※3 国又は地方公共団体が発注した業務に限る。
- ※4 予定価格100万円以上の奈良県県土マネジメント部発注業務の業務実績がない場合は6.5点として評価は0点とする。
- ※5 評価対象となる委託業務等成績評定点は[調査、計画業務]・[概略、予備設計業務]・[詳細設計業務]・[工事管理業務]・[積算技術業務]とする。  
（[測量作業、地質調査、単純調査等業務]を除く。）
- ※6 担当技術者を複数もうける場合の評価値は、各々の担当技術者の平均値により算出する。
- ※7 「配置予定技術者（企業）の経験及び能力」、「手持ち業務量」の状況等を明確に判断できる資料が添付されていない場合は、加算しない。

●業務の実施方針

評価項目			評価の着目点	技術点		
			判断基準	評価点	小計	合計
実施方針・実施フロー・工程表・その他	業務理解度		目的、条件、内容の理解度が高い場合に優位に評価する。	※※	4	14
	実施手順		業務実施手順を示す実施フローの妥当性が高い場合に優位に評価する。		2	
			業務量の把握状況を示す工程計画の妥当性が高い場合に優位に評価する。		2	
	その他		業務内容に適した実施体制となっている場合に優位に評価する。		6	

●評価テーマ

評価項目	評価の着目点		技術点		
	判断基準		評価点	小計	合計
評価テーマに関する技術提案	評価テーマ1 「導入モビリティの選定、運行ルートの設定等の検討」について	「導入モビリティの選定」において、モビリティを選定するうえでの手法及び着眼点について、具体的かつ的確に示されている場合に優位に評価する。	※※	12	30
		「運行ルートの設定」において、ルートを設定するうえでの手法及び着眼点について、具体的かつ的確に示されている場合に優位に評価する。		12	
		「付加価値サービス及び利用者の満足度を向上させるモビリティの機能の検討」において、実施可能な付加価値サービス及び利用者の満足度を向上させるモビリティの機能について検討を行ううえでの手法及び着眼点について、具体的かつ的確に示されている場合に優位に評価する。		6	
	評価テーマ2 「事業スキームの立案」について	「実用化に向けた分析」において、分析を行ううえでの手法及び着眼点について、具体的かつ的確に示されている場合に優位に評価する。	※※	16	28
		「事業スキームの立案」において、収支計画を具体的に策定し、事業スキームを立案するうえでの手法及び着眼点について、具体的かつ的確に示されている場合に優位に評価する。		12	

評価項目	評価の着目点		技術点		
	評価項目	評価基準	評価点	小計	合計
参考見積	業務コストの妥当性 業務量の目安として示した限度額を超えている場合、又は、見積項目が不足している場合は特定しない。		－		

合計					100		
----	--	--	--	--	-----	--	--

※※ の評価点は、審査員による5段階評価（100％・75％・50％・25％・0％）を行い、その平均点により算出する。  
技術点は、小数第3位を切り捨てし小数第2位まで算出する。